

2026年

咬合療法研究会

— 北日本支部例会 —

— 態癖の本質を学び、臨床に活かす —

講師

西林 滋 先生

日時

2026年 9月20日(日)

会場

株式会社ヨシダ北海道支店3階会議室
(札幌市北区区16条西3丁目1-15)

申込人数が多数の場合は、下の会場に変更されます。

一般社団法人北海道歯科医師会館 2階視聴覚室
(札幌市中央区北1条東9丁目11番地)



午前講演 「態癖の診査・診断・治療(基本編)」

筒井照子氏が説く「咬合療法」の4大要素は
下顎位、顎関節、歯列、咬合面形態です。
それらを悪化させる要因のひとつが態癖です。
その態癖の診査、診断、治療のポイントについて
解説いたします。

午後講演 「態癖の奥深さを知ろう ～咬合悪化の一因子としての「態癖」～

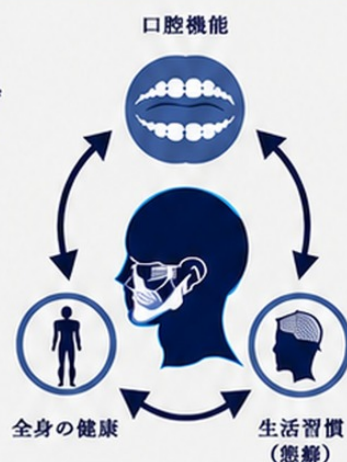
- 1 態癖結果を左右するもう一つの黒幕
- 2 私の勝手な別の分類
- 3 態癖とその結果への対処方
- 4 患者への説明の具体的な方法
- 5 その他

きちんとバイトをとったはずなのに、セット目に補綴物が高いのはなぜか。咬合紙では問題がないのに、患者さんから「よく咬めない」と言われるのはなぜか。歯列矯正後にふたたび悪化してくるのはなぜか。日常臨床で歯科医師がしばしば直面する、原因の見えにくい咬合トラブル。目の前の変化の意味がつかめず悩むより、理解している人の解説を得ることが近道です。小さなトラブルが大きな事柄につながっていると知ること、臨床医としての視野は大きく広がります。

小児口腔機能管理や口腔機能低下症の拡充など、保険診療の流れを踏まえると、歯科医療の視点は、「口という器官をみる医療」から「ヒト(全身・人間)をみる医療」へと移りつつあります。歯周病縦続支援治療は患者さんとの切れ目のない関わりであり、その中心を担うのは歯科衛生士です。患者さんに近い立場だからこそ、「ヒト」の変化に敏感であるべきです。

何をどう見ればよいのか、その変化は何によって起こり、何を意味するのか、歯科医師にも歯科衛生士にも、結果から原因を見極め、解決へ導く力が求められます。

咬合療法は豊富な臨床例に基づく実践であり、理解には実例をもとに語り、納得へと導いてくれる存在が欠かせません。咬合療法の視点に立ち、豊かな臨床経験を持つ西林先生ならではの切り口を、北海道で皆さんと共有したいと願っています。北海道で聴ける少ないチャンスをモノにしてください。



¥ 受講料

咬合療法研究会会員 歯科医師・・・無料
非会員 歯科医師(「顎からだバランスケア」1冊プレゼント)・・・5,000円
その他 コデンタル・・・1,500円
(Dr.と一緒に参加するコデンタルは1名無料)

*咬合療法研究会 関東支部協賛

お申込み

Webフォームより受付

右記QRコードでスマートフォン・PCから
簡単にお申込みいただけます。

